

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人宇都宮大学

1 全体評価

宇都宮大学は、構成員相互の信頼と協働を重んじながら、組織や学生・教職員それぞれが、主体的に挑戦し（Challenge）、自らを変え（Change）、社会に貢献する（Contribution）という3C精神をモットーとして、躍動感溢れ進化を続ける大学を目指している。第3期中期目標期間においては、「行動的知性」を備え広く社会の発展に貢献する人材の育成、独創的で特色ある研究による新たな「知」の創造、地域やステークホルダーとの双方向性を高めた活動を積極的に進め、地域の知の拠点としての機能を一層強化することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、既存の研究科を統合し文理融合・分野融合の新たな研究科を新設するとともに、大学における様々な取組をSDGsの達成に向けた観点により集約・整理した「SDGs事例集」を作成するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 平成30年4月に地域創生推進機構を設置し、総合企画室のマネジメントの下、地域デザインセンター、宇大アカデミー、産学イノベーション支援センターが地域課題発見・解決を想定したプログラムの開発や実施、一般市民や企業人等を対象とした公開講座等の実施を行っている。特に宇大アカデミーでは、これまでの公開講座に加え、一般市民等を対象に授業を開放するUUカレッジを新規開講するとともに、若手社会人を対象とした「とちぎ志士プログラム」や経営者等を対象とした宇大未来塾「次世代経営マネジメントプログラム」を開講するなど、地域ニーズに合わせた地域の知の拠点としての役割を推進している。（ユニット「『地域デザイン科学部』を拠点とする人材育成・イノベーション・共創機能の強化による”知”の拠点形成」に係る取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載22事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 新たな教員業績評価の実施

学長を座長とする人事給与マネジメント改革WGを設置し、平成31年度からの新たな教員業績評価の実施及び新年俸制の導入を決定している。教員業績評価については、「教育」、「研究」、「組織運営」及び「社会貢献」の4領域において、それぞれのルールに基づいて点数を算定することとし、より透明性の高い厳格な業績評価を行い処遇に反映させることとしている。

○ 新大学院「地域創生科学研究科」の設置

従来の4つの研究科（修士課程、博士前期課程）を発展的に統合し、1研究科2専攻16学位プログラムからなる文理融合、分野融合の新たな大学院研究科「地域創生科学研究科」を平成31年度より開設することとしている。研究科に共通する学際的思考力と実践力を養成するために全学生必修の授業科目「地域創生リテラシー」を開講するとともに、境界領域・異分野の専門知識・技術を養成するために「専門科目」の中に「境界・学際領域科目」を開設している。また、研究指導體制では、研究テーマに関連して学位プログラム間の連携・融合を図るため、主指導教員の他、デュアル副指導教員の3名での体制を設けている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 外部資金比率（共同研究）

URAによる外部資金及び競争的資金獲得のための申請書のチェックや、学内外のシンポジウムや企業交流会等を活用した地域や社会のニーズと大学の研究シーズとのマッチングを積極的に推進している。結果として、URAの産学連携活動として企業対応が47件行われ、URAが関与した外部資金は共同研究・受託研究25件、競争的資金11件の計36件となり、年度計画で設定した目標の15件を大きく上回っている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ アクティブ・ラーニングの推進

アクティブ・ラーニング（以下「AL」）に関する教員研修プログラムである「udai教育セミナー」の開催（6回）やALに関する全学及び各学部個別講習会を開催（9回）することに加え、ALマニュアルやALティップス集の作成・充実によりAL指導法が浸透した結果、平成30年度開講科目では基盤教育科目では100%、専門科目では98.9%がAL科目となるとともに、学生のAL科目受講率が100%となっている。

○ 「宇都宮大学SDGs事例集」の作成・公表

2015年に国連によって定められた「持続可能な開発目標（SDGs）」に基づき「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関するアクションプランを平成29年度に構築している。これに基づき、大学における様々な取組をSDGsの達成に向けた観点により集約・整理し「宇都宮大学SDGs事例集」として取りまとめてホームページで公表している。事例集には175件の事例が収録され、その数は教員の50%以上に相当する。